

平成30年度補助金等支出明細書

一般財団法人 日本食生活協会

1.	補助金等の名称	感染症予防事業費等補助金(地域の健康増進活動支援事業)		
2.	事業の目的及び内容	世代別に取り組む生活習慣病予防のためのスキルアップ事業		
	(1) 目的	<p>国民のライフスタイルや価値観・ニーズが高度化・多様化し食生活やそれらを取り巻く環境が急激に変化しており、その結果、次世代を育む若い世代では食べる事への意識や健康に対する関心が希薄になっているといわれている。</p> <p>若者の「朝食欠食」や「孤食」の問題、また、働き世代の食習慣の乱れや運動不足等による生活習慣病の増加や高齢者の要支援、要介護の要因となる低栄養やフレイルは重要課題であり、ますます食をめぐる問題への対応は急務となっている。</p> <p>そこで、平成30年度は、健康日本21(第2次)の目標である健康寿命の延伸と健康格差の縮小の取り組みに向けて健康づくりは各世代に沿った食習慣や運動習慣の改善が重要なことから、対象を「若者」「働き」「高齢者」の3つに分け“若者世代に食の楽しさを。働き世代に見直す食を。高齢世代に第3の居場所「シニアカフェ」を。”を活動テーマに展開する。</p>		
	(2) 具体的な内容	<p>1)運営委員会 事業の企画・運営等について協議した。</p> <p>2)全国各県協議会代表者説明会 各県協議会代表者を集め、事業の主旨を説明し、活動内容の共有・情報交換を行った。</p> <p>3)県協議会市町村単位説明会 各市町村協議会長を集め(2)において周知された事業の主旨を説明し理解を図り活動内容の共有・情報交換を行った。</p> <p>4)スキルアップ講習会 ①若者世代 ～朝食欠食の解消&食事バランス講座の開催～ 主に親元を離れる高校生から大学生までを対象に出前講座を実施した。朝食欠食等の偏った食生活は将来、生活習慣病を発症するリスクが高まる事や健康な身体を維持するためには、バランスの取れた食事を習慣化することが食事の楽しさに繋がることを伝えた。全国531地区、639回、17,551名が受講した。</p> <p>②働き世代 ～適正体重&減塩講座の開催～ 主に就労者を対象に実施した。共働き世帯の増加や働き方が多様化し健康にも不安を感じるようになり糖尿病や高血圧等の生活習慣病が心配される世代でもある。PTA父母の会や消防・警察、企業等では昼食時間を利用して講習会等を行い、定期的な健康診断の薦めや適正体重の維持や減塩の大切さを伝え食生活の見直しを推進した。全国535地区、637回、15,755名が受講した。</p> <p>③高齢世代 ～シニアカフェの開催～ シニアカフェを開設し、自宅に閉じこもりがちな高齢者を小グループで集め、低栄養予防と適度な運動を伝え認知症予防のためのドリルによる挑戦やご当地体操によるロコモ予防などの普及啓発を行った。全国647地区、1,122回、20,612名が受講した。</p>		
3.	交付実績額	64,411 千円(A)		
4.	補助金等における管理費			
	(1) 人件費	0 千円		
	(2) 一般管理費	0 千円		
	(3) その他の管理費			
		内容	金額	
			0 千円	
		合計	0 千円	
		合計	0 千円	
5.	外部への支出			
	(1) 外部に再補助・再委託等されているものに関する支出			
		支出内容	支出先	金額
				0 千円
		合計		0 千円(B)
	(2) (1)以外の支出			
		支出内容	支出先	金額
		旅費	委員会・講習会旅費	4,406 千円
		消耗品費	講習会材料代他	27,011 千円
		印刷製本費	恒陽社印刷所他	27,142 千円
		通信運搬費	郵便他	2,540 千円
		借料及び損料	貸会場業者等	3,312 千円
		合計		64,411 千円
6.	その他			
		内容	金額	
			0 千円	
		合計	0 千円	
7.	再補助・再委託等の割合	0.0 % (B/A)		

(注)千円未満の端数は四捨五入しています。